第九回

日本舞踊の世界

◆とき　平成二十四年三月四日(日)
開場　午後一時　開演　午後一時三十分～終演　午後四時(予定)

◆ところ　金沢市アートホール

●主催　(公財)金沢芸術創造財団、金沢市
●共催　北陸舞踊協会、(財)石川県芸術文化協会
●後援　石川県邦楽舞踊特選会、石川県邦楽舞踊協会、北國新聞社、北陸放送

番組

一、清元　**青海波**　藤間　菊秀　藤間　直実　（藤間　勘菊　社中）

神代から海の雄大な情景に始まり、松島の春の景色、潮干狩りの様子、船から見る夏の筑波と富士の山、松風の物語というように名所の海の叙景をつづった内容となるもので、泰平の御代を目出て素踊りのご祝儀物として踊られるものです。

二、長唄　**新鹿の子**　藤蔭　都紀英　（藤蔭　喜代枝　社中）

道成寺と屋敷娘をミックスしたもので、娘道成寺の要所を踊る様に出来ています。

三、大和楽　**松**　藤間　紫芳　（藤間　勘佐蒲　社中）

春のあけぼの、見わたすかぎりの松原、白い砂浜に寄せる波音、天女の舞の楽の音についさそわれて舞いはじめるという格調の高い踊りです。

四、長唄　**春の調**　藤蔭　風与　（玲明会）

作曲二世杵屋勝三郎。慶応元年（1865）三月発表。春の野辺の長閑さを唄った小曲で地唄風の独吟もの、上品な点がこの曲の特色です。

五、長唄　**松竹梅**　藤間　寿祐　藤間　勘寿帆　藤間　勘優寿　藤間　勘寿祐　藤間　つばさ　（藤間　勘寿々　社中）

目出度さや福を開くご祝儀物としてよく知られている、上品で格調高いものです。今回は五人でより華やかさのある踊りとなっています。

六、小唄　**勧進帳**　哥沢　**玉川**　若柳　佐和賀　（若柳　賀津雄　社中）

ご当地「ひがし」のお座敷にかけられて参りました、ゆかりの演目のうち、此の度は二題、男踊・女踊を舞台上で味わっていただく趣向です。

七、長唄　**菖蒲浴衣**　藤蔭　喜文　（藤蔭　喜代枝　社中）

作詞者不詳。作曲二世杵屋勝三郎、三世杵屋正次郎。本調子で五月の節句を唄い、二上がりとなって浴衣の文句から役者好みの模様の唄、三下りになって隅田川の船遊びが粋に唄われ、チラシに片砂切の手を入れて、賑やかに結びます。唄も三味線も陽気で粋なところが受けて色々に振付がつけられています。

八、長唄　**勝三郎連獅子**　藤間　麻有　（藤間　勘菊　社中）

能の「石橋」をもとに舞踊化した松羽目物の一つです。親獅子は仔獅子に試練を与えるために、谷底へ突き落とし、はい上がってきた仔獅子だけを育てるという伝説を元にした作品です。前半は、勇壮に中国清涼山や親獅子がわが子の心胆をためす様子、後半は牡丹に戯れながら獅子の狂いとなります。今回は一人で表現いたします。

九、長唄　**元禄花見踊**　藤間　勘寿帆　藤間　勘優寿　藤間　勘寿祐　藤間　つばさ　（藤間　勘寿々　社中）

上野の山の花見の賑やかさを表現した楽しい踊りで、若々しさの溢れる舞台です。